



114号 令和7年3月25日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより

呉市立阿賀小学校
安宗 誠



修了式 式辞

式 辞

阿賀っ子全員、今の学年を本日無事修了することができました。本当におめでとうございます。この後、担任の先生から皆さん1人1人に手渡していただく修了証をじっくり見てください。それを見たとき、どんなことが気になりますか？教科の成績が上がったことですか？下がったことですか？学校を休まなかったことですか？休んだことですか？担任の先生がどんな言葉を書いてくださったのかということですか？これからお家に帰ってお家の方に見せたとき、お家の方から言われる言葉ですか？いろいろなことを気にしながら・・・、「気にする」というよりも、自分のしてきたことやその結果をじっくり振り返りながら、ここを変えていこう、ここをこれから頑張ろうという気持ちを持ち続けながら生きていくことがとても大切なことです。

ところで、私がこの年になってつくづく思うのは・・・それは、「普通に生きていくことが何と難しいことか」ということです。「普通に生きる」とは・・・、「人の道を外れない生き方をする」ということです。まわりのすべての人や物を傷つけないこと。悪口を言わないこと。ルールを守ること。欲張らないこと。他にも、言えば切りがありませんが、受験に合格することよりも、希望する仕事に就くことよりも、高い地位を得ることよりも、お金持ちになることよりも、ある意味、それをはるかに超える最も大切なことだと言えるかも知れません。例え苦勞してやっと叶えることができた夢だったとしても、人の道を外れた生き方を一瞬でもしてしまうと、せっかく苦勞して叶えたこともあっけなく跡形もなく吹き飛んでしまうことだってあるのです。

そうならないために絶対に欠かすことのできない心が・・・、

それはこれです（「感謝」の文字を示す）。「感謝（かんしゃ）」です。「感謝」の「感」は、「感じる」。何を感じることでしょうか？「ありがとう」を「感じる」ことです。「感謝」の「謝」は「言（ごんべん）」に「射る」。「発射」の「射（しゃ）」ですね。つまり、「言葉を発する」ことです。ということは、「感謝」とは、「ありがとう」を感じて、それを心から言葉に表せることだと言えそうです。例えば、皆さんが、朝の見守りの方に、「私たちの命を見守ってくださってありがとうございます」と感じ、「おはようございます。いつもありがとうございます。」と表せていること。そのことなのです。

これまで1年生で約2千5百日、5年生で約4千日を生き抜いた阿賀っ子の皆さんが、これから百歳まで生きるとして残り3万日あまり。これからもずっと感謝を貫き通す生き方をする。それだけでいいと言い切っても言い過ぎではありません。それが幸せにつながる道だと私は信じています。感謝を持ち続けた先に必ずある幸せに、阿賀っ子全員、たどり着けますように。

令和7年 3月25日

呉市立阿賀小学校長 安宗 誠